

## 巻頭言

### 「病院医誌の役割」

病院長 和 泉 裕 一

名寄市立病院医誌第22巻第1号が完成しました。昨年にも増して読み応えのある内容と思います。投稿してくださった皆様、編集委員の皆様にご心からお礼申し上げます。この病院医誌は今後も当院の歩みを刻んだ貴重な資料となるものであり重要な財産でもあると思っております。

さて、本年4月に診療報酬改訂が施行され、また社会保障と税一体改革の基本的な方針に沿って、国は団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、医療機関の機能分化と連携、在宅医療の充実により、医療・福祉・介護などをその地域で包括的に取り組む地域包括ケアシステムの構築を求めています。上川北部地域においてもこれについて真剣に取り組んで行かなければならないわけですが、当院は今後も急性期医療、救急医療、専門医療を中心にこの地方のセンター病院として他の医療機関と密な連携を保っていく役割を持っていくことには変わりはありません。そのためにも、自分たちが行っていることを常に振り返ることが必要ですし、また、それを世に公表し第三者の評価を受けることは独りよがりにならないためにも重要なことでもあります。医学雑誌や刊行物は世の中に多数ありますが、当院の病院医誌もその土俵のひとつと考えています。学術だけではなく様々な院内の活動や取り組みなどについても掲載されているのがこの病院誌の特徴であり、広く多くの皆様に読んでいただきご意見を頂戴できればありがたく思います。

本号には、名寄三愛病院院長の山岸眞理先生による故岡崎望先生への追悼文が載せられています。岡崎先生は名寄市立病院医誌の発刊時からいろいろとご指導くださいました。また優秀論文を選考する委員のおひとりとして長きにわたってこの医誌を支えてくださいました。ほんとうにありがとうございました。岡崎先生のやさしい笑顔と声、そして先生の地域医療に対する熱い思いをこの医誌を通して感じています。